

平成 28 年度新規要望課題

研究区分	革新（地域戦略プロ）	試験期間	H28～30
課題名	アスパラガス疫病をはじめとする連作障害の総合的な診断及び対策技術の開発		
関連の重要研究課題名	需要・用途に対応した野菜の持続的安定生産技術の確立		
主担当試験場・部	野菜花き試験場・野菜部、環境部		

【現状と課題】

長野県は古くからのアスパラガス産地が多く、改植が行われてきているものの、改植後に株落ちや生育不良が生じる事例が多くみられる。水田転換で新植する場合も生育不良が見られることが多い。そのため、栽培面積および生産量の減少が続いている。これらの生育不良要因として、土壤病害（立枯病、株腐病、疫病）、圃場の排水性不良や湿害等が挙げられるが、圃場により障害の主要因は異なり、複数の要因が複合的に関与している圃場も多い。しかし、主要因を簡易に且つ的確に診断する手法や複数要因に対する総合的な対策は十分開発されておらず、改善し安定的に改植を行うことができないため、改植が必要な生産性の低い圃場は、生産者の栽培意欲はあるにもかかわらず結果的に栽培放棄されるなど、生産力の低下につながっている状況にある。

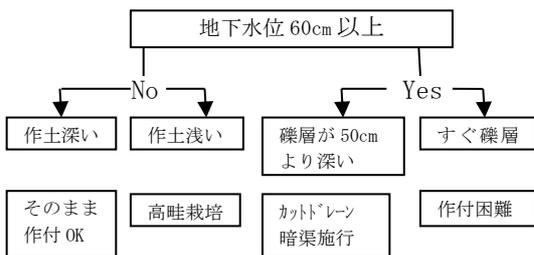
【試験研究計画】

1. 土壤病害等による障害の生物性診断技術の開発と発生生態解明
2. 圃場の排水改良技術の実証
3. 効率的な圃場排水性診断および対策技術の確立
4. 診断結果に応じた総合防除体系の確立

効率的な圃場排水性診断

長野野菜花き試、野茶研、中央農研

- ・ 採土管で土壌を採取
- ・ 地下水位、礫層・グライ層深度等、指標検討
- ・ 排水性程度や圃場条件によりとりうる対策を診断



圃場排水性改良技術の確立

長野野菜花き試、野茶研

- ・ 低コストで簡易に施工可能なカットドレンなどのアスパラガス栽培での効果実証



土壤病害の発生実態解明と診断技術の確立

中央農研、秋田県立大、長野野菜花き試

- ・ 長野県における発生実態の解明（立枯病、株腐病、疫病）

総合診断・対策技術の確立

診断・対策マニュアルの作成

【期待される成果】

1. 圃場の排水性と生物性の診断を総合的に行い、的確な対策技術を適用することで、安定的に改植や新植を行うことが可能となり、生産者の経営安定がもたらされる。
2. アスパラガスの生産力が大きく向上することにより、国際競争力が強化される。